

トップの
顔

— 私のミニ履歴書 —

岩盤削孔技術協会理事
三和機材(株) 代表取締役社長

栗田 五郎



栗田 五郎(くりた ごろう)
昭和17年1月5日 山形県生まれ
昭和37年 三和機材(株)入社
平成15年 代表取締役社長就任

■幼少時代

山形県の眞室川町は、JR奥羽本線新庄駅から秋田県境へ3駅北上したところがあり、私の生まれた所はそこからもう一駅北上し、更に駅から5キロほど山あいを入った30数戸の村落である。わが家に電気が通って60年も経たないか初めての電灯の眩しさが今でも微かに記憶に残る。村には小学1年から4年生までの児童が通う教室一つの分教場があり、町の学校で定年を終え

単身赴任してきた老教員に、一つの教室で4学年同時に授業を受けるという経験を4年生まで、5年生から町の本校へ通った。本校へは片道5キロの道を夏は下駄履き、冬は積もった雪を掻き分けながら駅まで歩き、そこから眞室川まで一駅乗る。学校へ着くまでが一仕事だが、帰路は貨物列車の機関室で缶焚きを実習(?)したり車掌室で異郷の話を聞いたり、良き時代の列車通学を楽しむ。夏は川に遊び、冬はスキー、春秋は山野を駆け巡りの生活で文明機器の恩恵は無いが結構楽しく。その頃足腰が鍛えられたように思うが、今ではその大部分を食い潰した感も。

■社会に出て

中学を卒業すると集団就職の夜行列車で上京、川口市にある紡績会社に就職。そこで社員寮に入り働きながら定時制高校に通い、卒業を機に三和機材に入社。

三和機材では夜間工業高専、大学に遊学しながら設計業務

からスタート。主力製品アースオーガで、地下鉄の夜間工事向けに初めての3段折り曲げリーダー式の一作動掘削長20mオーガを設計し、2ヶ月間夜間工事に立会ったのが仕事への目覚め。油に塗れたリーダーを攀じ登り命綱なしでの修理は今思い出してはゾッと。その後企画、生産管理、生産本部長等を経て03年9月前社長の急逝を受けて社長就任。

社会に出て後語れる特別の業績はないが、30年前に2年間夜間の工業所有権研究講座に通い知的所有権に理解を深めたことで、今知財経営時代を迎えても違和感はなく知財戦略の重要性を説いている。

■信条・趣味

企業は人なり、そして先ず顧客満足あつての企業。社会的公正さを基本に据え、社員には自己啓発の大切さと会社も個人も自立の精神が大事と説き、物まねでない独自技術・独自製品の開発を言い続けている。

趣味は読書。中国の歴史ものや中島敦、司馬遼太郎などを好む。中々好きな本に手が回らないが最近では「小説盛田昭夫学校」が終戦直後の「坂の上の雲」を追い求める青春群像を描き、仕事への情熱と勇気を与えてくれる書として社内でも推奨している。スポーツは何とかの横好きでスキー、水泳、ゴルフと社員との付き合いが出来る程度。休日は2時間ほど歩き、フィットネスクラブのプールで汗を流す。

■今後の展望

会社は今年50周年を迎える。48年間の創業者による経営を引き継ぎ、我々の力で新しい時代を拓かねばならない第2の創業期と社員に呼びかけ、蓄積してきた土木関連の無公害技術をベースに自然と調和する新技術、新製品の開発に先頭に立つ気構えの日々である。

(三和機材(株) 栗田 五郎)

MY TOWN

見どころ食べ処

— 関西編 —

〔但馬の自然と料理〕

兵庫県の北部に位置する但馬(タジマ)地方は自然に恵まれ、四季折々の風情が楽しめます。豊岡市の兵庫県立コウノトリの郷公園は、国の天然記念物であり兵庫県の県鳥であるコウノトリの保護・飼育増殖・野生化に努めている施設です。コウノトリは、水田や湿地、河川などを好む水辺の鳥で大型の鳥です。外見は鶴(タンチョウ)に似ていますが、サギやトキなどと同じ仲間です。IUCN(国際自然保護連合)によって近絶滅

類に指定されている国際的に希少な鳥です。かつては日本全国各地に生息していましたが、1971年に豊岡盆地で見つかったものを最後に、姿を消してしまいました。現在、118羽(H17.6.20現在)が飼育されており、加えて2002年から野生のコウノトリ1羽(極東地方より飛来)が飼育ゲージの近くに住み着く様になりました。この飼育ゲージから間近でコウノトリを見ることができます。9月24日(土)にはコウノ